

アクセス方法

<電車>
 東京駅から
 上越新幹線「越後湯沢駅」(75分) →
 特急はくたか「金沢駅」(185分) →北鉄バス「白峰バス停」(105分)
 東海道新幹線「米原駅」(135分) →特急しらさぎ「金沢駅」(115分)
 →北鉄バス「白峰バス停」(105分)

<車>
 東京方面から
 練馬IC →関越・上信越・北陸自動車道(約7時間)
 →白山IC(1時間30分) →白山市白峰

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～30年 こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 73

山抱かれ 心満たす
 ～石川県 白山～

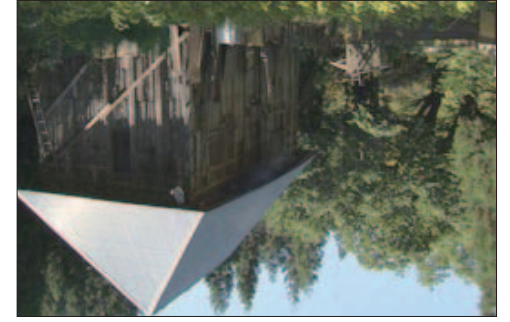
2012年11月11日(日)放送



牛首紬(つむぎ)は、800年前から始まったとされる、白山の麓に伝わる絹織物です。出作りで生産される繭のうち、不良品である「玉繭」を使い、自分たちの喜物を織つた事が始まりとされます。「玉繭」は中に二匹の蚕がいるため、複雑に絡み合った糸を解きほぐして一本の糸にするのが難しく、熟練の技を必要とします。牛首紬はまた、「釘(くぎ)抜き紬」という別名を持つほど生地が丈夫で、何度も染め替えが出来、長く使えるという長所があります。

牛首紬

旅の見どころ 3



白山の周辺では、春先から雪が降り始めるまでの時期、人々が麓の村から山奥に移り住む、「出作り」という生活が盛んでした。人々が暮らした「出作り小屋」には、二階や屋根裏などに養蚕のための部屋が作られていました。しかし、養蚕の衰退とともに「出作り」は衰退し、現在は小屋のほとんどが失われました。「出作り」を行う農家は、山奥の斜面に焼き畑を作り、そこでプロ、ク、工、大根を育てて自給自足の生活を送りました。

出作り小屋

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

白山

白山は、標高2702メートルの山で、石川県と岐阜県の境にそびえます。冬の時期、日本海から吹きつける湿った風が、大量の雪をもたらし、山頂付近では7メートルを越す積雪量があります。雪は大地にしみこんだ後、豊富な伏流水となって再び流れ出し、麓での稲作や酒づくりに使われてきました。山の中腹には、フナやダケカンパなど、落葉樹の原生林が広がり、10月以降、紅葉を求めて多くの観光客も訪れます。

